

## 隣人を愛する

ルカ10：25～37

今、日本は長寿大国です。しかし敬老の日に、あと何年、自分は元気で生きられるのだろうと考える若い人も多いはずです。若くても将来について気になります。聖書の律法の専門家も「永遠のいのちを得る方法」についてイエス様に尋ねました。

イエス様はまず、彼の専門である律法について尋ねられました。彼が「心をつくし、力をつくし、知性をつくして、あなたの神、主を愛しなさい」(申6:5)。と、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」(レビ19:18) の2つを答えると、イエス様は「あなたの答えは正しい。それを実行しなさい」と言われたのです。それでは、「永遠のいのち」と「隣人を愛すること」には、どのような関係があるのでしょうか？

「永遠のいのち」を与えられる方は創造主である神様です。この神様の本質は「愛」です。天の御国でこの神様と共に生きる者は、イエス様の十字架の血潮により罪が赦され、罪がない者というだけではなく、さらに「隣人を自分自身のように愛する人」であることが求められるのです。今回はこのことについて、「良きサマリア人」の話から学んでみましょう。

## 聖書の学び

### I、人間の本质

1、ある人がエルサレムから歓楽街のあるエリコに下って行きました。この人は神様から離れた人を表しています。この後、彼はどうなりましたか？ (30節)

2、全てを失い、半死半生になっている人は、自分の力では立ち上がりません。彼の後に来た人々はどうしたのでしょうか？

祭司・レビ人：反対側を通り過ぎる… 死人や血に触ると汚れて神殿での神の仕事が出来ないという理由も付けられる。(31、32節)  
(律法は知っているが実行できない)

3、祭司やレビ人が特別悪いのではなく、人の心の中は同じで、先週の左に分けられたヤギのようです。(マタイ25：41～45)

①無慈悲、無関心

②高慢で、優越感を持ち、小さい者・弱い者を見下す

③仲間であるのに、見捨てる。

## Ⅱ、良きサマリヤ人に見る神様の本質

---

### 1、良きサマリヤ人は何をしたでしょうか？

#### ①見て、かわいそうに思った (33節)

- ・介抱する（傷にオリーブ油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして）(34節)
- ・宿屋に連れて行き(自分の家畜に乗せて運ぶ)、1晩介抱した

#### ②隣人となって最後まで世話をする

- ・翌日、宿屋の主人にお金を渡し(35節)
- ・介抱してくれるように頼み
- ・追加の費用も出す。

### 2、主イエス様はまことの隣人として、私たちに何をして下さったのでしょうか。(Iヨハネ3:16)

## Ⅲ、宿屋の主人にみるクリスチャンの姿

---

### 1、宿屋は教会のようなものです。私たちが主イエス様の心で旅人を介抱してあげてくれることを主イエス様は願っておられるのです。

① Iヨハネ5:12 : 主イエス様を信じて、イエス様の心を持つ

② Iヨハネ5:3 : 主イエス様に従う者です。

③ ルカ 7:47 : 主イエス様に多く愛されたことが分かる心があるなら、他の人のことも多く愛することができます。

### 2、主イエス様は良きサマリヤ人として宿屋の主人に、何を渡し、何を約束しましたか？

①お金(デナリ2枚)：必要の全てを与えて下さる。助け主ご聖霊も与えて下さる。

②主に頼まれる：「介抱してあげて下さい」、愛してあげて下さい。

③帰って来られて、清算される